

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量 (kℓ)	許可容量 (kℓ)	事故発生時の 法区分	事故時の 容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量 kℓ	経年劣化以外 の要因	開口部の 寸法 (mm)・ 箇所数	形式	そ の 他
										完成年月日						
1	1974/12/18	50,000	48,000	旧法	42,888	C重油	底板×側板 溶接部	亀裂部		1973/12/15	海上	47888	基礎工事		DRT	
2	1977/12/8	4,700	4,700	旧法	約3,260	軽油	側板×底板 のT継手内 面溶接部	割れ	スラグ捲き込みによる初層ビードにクラック発生、伸展して表面のピンホールに接続（側板最下段14mm、アニュラ板9mm）	1957/7/23 1958/4/28	防油堤内	微量 不明	溶接部の初層の欠陥が上部へ進展しピンホールに接続		CRT	1975年2月不等沈下1/100以上で基礎修正となり、1976年11月基礎修正着手、1977年4月底板の部位取替（事故箇所を含む）、1977年7月使用開始 約4ヶ月後に事故発生
3	1988/7/5	82,641	82,641	旧法		原油	底板溶接部	亀裂部	タンク開放検査後に溶接部へのグラインダー仕上げを行い溶接部が減じられ、原油を入れて、重みで亀裂発生（底板8mm）	1973/10/22 1975/3/6	地中	0.4	オーバーゲ ラインダー	不明	FRT	
4	1995/1/13	28,970	28,970	旧法	3,522	軽油	底板溶接部	割れ	タンク開放検査時に溶接部へのグラインダー研削を行い溶接部が減じられたにもかかわらず補修溶接実施せずのど厚不足となる。底部に変形もあり、油を入れて、重みで亀裂発生（底板6mm）	1967/5/24 1968/5/15	防油堤内	140	・グラインダー研削によるのど厚不足 ・内在欠陥の存在 ・底部の変形	割れ長さ 655mm 1箇所	CRT	S61.12.23保安検査 側×A板：内外を100%溶接補修 底板相互：30%US1で補修 板：15%補修 B板×A 底板に「しわ」が発生していた。その部位に当板がある場合、底板を撤去し取替えとある。
5	2006/8/8	23,437	23,437	旧法	14,000	ナフサ	不明	不明	不明	1972/3/29 1973/8/3	—	浮き蓋 沈没	不明	不明	IFCRT	浮き蓋型式：パン型
6	2006/12	103,500	103,500	新法	不明	原油	ポンツーン 溶接部	割れ	強風により生じた液面陽動により熱影響部から割れが生じている。	1978/12/4 1980/7/29	—	ポンツーン内の漏えい	強風に伴う液面陽動により生じた疲労破壊	不明	FRT	ポンツーン内トラスのタック溶接及びバルクヘッドの溶接線熱影響部からの割れが多い。

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量	許可容量	事故発生時の法区分	事故時の容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量	経年劣化以外の要因	開口部の寸法	形式	そ の 他
		(kℓ)	(kℓ)							完成年月日		kℓ		(mm)・箇所数		
7	2008/1/16	12,870	12,870	新法	不明	ガソリン	デッキ板	破損	ローリングラダーの脱輪により、デッキ板が破損している。	1977/9/22	防油堤内	19.6	車輪が脱輪しやすい構造であった。	不明	FRT	事故後、平成20年9月30日消防危第350号通知が発出される。
										1979/9/26						
8	2008/1/29	2,400	2,400	新法	不明	軽油	附属配管	破損		1999/10/14	防油堤内	29.6	調査中	不明	IFDRT	
									不明							
9	2008/8	98,410	98,410	新基準	水張時	原油	底板溶接部	割れ	重ね隅肉溶接部がグラインダーの過剰な削り込みにより、のど厚不足を生じている。	1968/5/17	水張時の漏えい	水張時の漏えい	アニュラ板更新工事に伴うジャッキアップにより、のど厚不足箇所に過剰な応力が生じたと推定	割れ長さ120mm 1箇所	FRT	日板は平成4年に一部取替え、平成4年及び平成12年に当板補修
										1969/5/2						
10	2010/1/24	51,252	51,252	新基準		ジェット燃料	底板溶接部	割れ	底板(6mm)重ねすみ肉溶接部。 割れた部分は、極近傍にルーフサポートの保護板が設置されている。また、近傍にしわも見受けられる。	1968/4/12	防油堤内	調査中	調査中 (No.86と同様のケースと思われる)	割れ長さ400mm 1箇所	FRT	昭和61年にアニュラ板部 全替えを実施 底板はS61年に工事に伴い部分替え、当板は、S61年、H5年、H13年に実施し、計3%程度ある。 底板のしわも確認された。
										1969/7/23						
11	2010/5/31	600	600	準特新法	不明	ガソリン	浮き蓋	ワイパーシールの脱落	ウレタン製ワイパーシール材にはひび割れが無数に発生しており、もろく変質していた。	1956/2/19	—	—	メイフラワー社製ウレタンシールと内容物のハイオクガソリンとの相性が良くなかった。 (推定)	—	IFCRT	2007/11にインナーフロートを点検。ワイパーシール端部に摩耗が生じているが、全体的には異常なしとしていた。
										1956/8/28						

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量 (kℓ)	許可容量 (kℓ)	事故発生時の 法区分	事故時の 容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量 kℓ	経年劣化以外の要因	開口部の 寸法 (mm) ・ 箇所数	形式	そ の 他
										完成年月日						
12	2010/7/13	13,400	13,400	新基準	4,500	ガソリン	浮き屋根上から防油堤内への流出	ルーフサポート上端部	浮き屋根上の雨水排水が一部機能不良となっており、事故当日の降雨で浮き屋根上の排水が十分でなく、喫水線が上昇	1965/2/26	防油堤内	不明	センターウエイトを貫通する排水路内がスケールにより一部詰まりを生じていた。	—	FRT	
										1965/6/25						
13	2011/1/5	20,171	20,171	新基準	不明	ガソリン	底板溶接部	割れ	底板相互溶接線に亀裂が確認された。また、その近傍には保護板が取り付けられていた。	1968/2/1	防油堤内	7.9	建設当初の溶接不良	不明	FRT	割れの発生した溶接線には溶接欠陥が残されていた。
										1968/11/12						
14	2011/5/19	154,642	154,642	新基準	水張時	原油	底板溶接部	割れ	亀甲部の重ね隅肉溶接部	1971/5/24	水張時の漏えい	水張時の漏えい	調査により、底板と基礎との間に空隙が確認されている。	割れ長さ1000mm	FRT	
										1972/5/8						
15	2012/6/28	1,000	1,000	非危険物タンク	817	アスファルト	タンク上部			1967/5/11	海上	400	事故発生時、内容液を加温中であつた。	不明	CRT	
										1967/7/3						

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量 (kℓ)	許可容量 (kℓ)	事故発生時の法区分	事故時の容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量 kℓ	経年劣化以外の要因	開口部の寸法 (mm)・ 箇所数	形式	そ の 他
										完成年月日						
16	2012/11/7	99,600	99,600	新基準	51,100	原油	浮き屋根 ポンツーン	ポンツーン溶接線		1969/4/22	防油堤内	浮き屋根沈没	強風による液面陽動	不明	FRT	
										1971/9/14						
17	2012/11/28	103,500	103,500	新法	不明	ガソリン	浮き屋根 ポンツーン	ポンツーン下板	下板母材部に割れ有り。	1978/12/4	ポンツーン内	0.09	割れが発生した下板にはルーフストッパが保護板を介さずに取り付けられている。	不明	FRT	同月に沖縄ターミナルで発生した浮き屋根沈没事故を受けて、点検を実施したところ発見に至った。
										1980/7/29						
18	2013/1/31	40,000	40,000	新基準	40,332	原油	側板母材部	不明	不明	1973/6/4	防油堤内	0.04	不明	不明	FRT	
										1974/6/13						
19	2013/2/14	46,162	46,162	新基準	不明	重油	付属配管	附属配管	付属配管に接続競れているバルブに亀裂が認められる。	1969/12/24	構内	1.2	不明	不明	CRT	
										1971/11/22						

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量 (kℓ)	許可容量 (kℓ)	事故発生時の 法区分	事故時の 容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量 kℓ	経年劣化以 外の要因	開口部の 寸法 (mm) ・ 箇所数	形式	そ の 他
										完成年月日						
20	2014/2/14	999	999	準特 新基準	不明	HAR油	側板母材部	亀裂開口部	負圧によるタンクの凹みにより、泡消火配管サ ポート(保護板を介してい ない。)が内側に引き込 まれ、側板に亀裂が生 じた。	1968/12/23	防油堤内	不明	外気温低下に伴い、ベ ントロ付近でナフタレ ン成分が結晶化したこ とによりベントロが閉 塞した。その状態にお いて、内容を大量に移 送したため、吸気量が 不足したことで内部が 負圧状態となった。	不明	CRT	
										1969/10/22						
21	2014/2/9	125,057	125,057	不明	不明	原油	浮き屋根上から防油堤 内への流出	不明	不明	1968/12/14	防油堤内	100	不明	不明	FRT	
										1970/1/30						
22	2014/10/14	99,600 他8基	99,600 他8基	新基準	不明	原油	浮き屋根 ポンツーン・ デッキ板	割れ	浮き屋根構成部材の溶 接部に割れが認められ る。	1969/4/22	浮き屋根 上・ ポンツ ーン内	不明	H26.10.12 の台風19 号通過の影 響	割れ多数。確認 できたもののうち、最 大で400mm。	FRT	
										1970/7/6						

供用中の屋外タンク貯蔵所の流出事故概要（腐食を除く）

No.	発生年月日	呼称容量 (kℓ)	許可容量 (kℓ)	事故発生時の 法区分	事故時の 容量 (kℓ)	貯蔵油種	発生箇所	箇所詳細	箇所状況	設置年月日	被害範囲	流出量 kℓ	経年劣化以 外の要因	開口部の 寸法 (mm)・ 箇所数	形式	そ の 他
										完成年月日						
23	2016/11/20	1,480	1,480	新基準	1,370	モノエチ レンジリ コール	側板溶接 部	割れ	PTにおいて、側板はめ 板部に2箇所の指示模 様が確認された。	1973/12/22 1974/6/4	防油堤内	微量	側板はめ板 部に配管サ ポート保護 板を取り付 けており、 当該箇所の 拘束が大き かった。	不明	CRT	
24	2016/4/21	18,583	18,583	新基準	不明	ガソリン	浮き屋根 ポンツーン 内	割れ	既設ポンツーンサポート 補強板溶接部に割れが 確認された。	1963/2/7 1964/3/10	ポンツーン内	不明	既設ポン ツーンサ ポート補強 板上に補強 アングルを 溶接してい た。	不明	FRT	
25	2016/9/20	51,417	51,417	新基準	不明	ジェット燃 料	浮き屋根上 から防油堤 内への流出	ルーフサ ポート上 端部	漏えいを生じたルーフサ ポートは浮き屋根中心 部に位置する。	1967/4/12 1968/7/23	防油堤内	4.7	工事業者の 入れ替わり が数度あつ たことによ り、喫水線 の把握がな されていな かった。	－	FRT	